

「保健体育・体育」（バスケットボール）学習指導案

1. 日時 令和6年10月18日（金） 第4時限（11：25～12:05）
2. 場所 本校体育館
3. 学部・学年・組 中学部 体育2班 1, 2年生23名
4. 単元（題材）名 「バスケットボール」（ゴール型）
5. 単元（題材）目標
 - ・ボールの基本的な扱い方を身に着ける。（知識及び技能）
 - ・仲間と協力してゲームを行い、バスケットボールの基礎的な知識・技術力を高め、喜びを分かち合う。（思考・判断・表現）
 - ・バスケットボールの楽しさを全員が感じることができるようになる。（思考・判断・表現）
 - ・楽しみながら運動量を増やす（学びに向かう力・人間性）

6. 児童生徒観

本グループは中学部全学年の生徒約70名を、運動能力別に「1班」と「2班」に分けた中での「2班」である。2班の生徒たちは1年生13名、2年生10名、3年生12名の計35名の縦割りグループからなっている。（本時は3年生が修学旅行のため、1, 2年生で実施する）

生徒たちの実態は幅広く、運動が得意な生徒や苦手な生徒がいる。ただし、生徒たちの学ぼうとする力は素晴らしく、一人ひとりが教師の指示をよく聞き、集団での移動や活動にも積極的に取り組むことができるグループである。運動能力自体の差はあるものの、生徒たち同士で協力して活動をする場面を多く設定することで、互いに教え合うこともできるようになってきた。

本単元では、R6年度シラバスの「球技」からバスケットボールを取り入れている。バスケットボールは日頃から生徒たちが昼休みに体育館で遊びを通した運動の一環として行っている。しかしまだ、バスケットボールの基本となる、「ドリブル」「パス」「シュート」を正しく行うことはできていない。そのことから本単元では、バスケットボールの基本の動きを丁寧に生徒たちに指導していく。「ドリブル」「パス」「シュート」の練習を何度も行い、「バスケットボールの基礎的な知識・技術力」を身に着けることで「できる」という達成感を養い、その先の「運動が楽しい」を実感させたいと考える。本単元のゲームでは、本来のファウルには拘らず、生徒の実態に合わせたルール設定を行うようにする。

7. 単元（題材）の評価規準

A 知識・技能	B 思考・判断・表現	C 主体的に学習に取り組む態度
① ドリブルがスムーズにできている。 ② ボールを受けたり、パスをしたりすることができる。 ③ シュートを打つことができる。	① チーム内での自身の役割を理解しゲームを行うことができる。 ② 仲間と協力しゲームを行い、場面に応じた判断ができる。 ③ 結果などを仲間と共有することができる。	① 意欲的に学習に取り組み、技術の向上を図ることができる。 ② ゲームに主体的に参加することができる。

8. 単元の指導と評価の計画（全10時間、本時は第9時）

次	時	学習内容・学習内容	指導上の留意点	評価規準 (評価方法)
1	1	バスケットボールについて ・バスケットボールはどのような競技なのか知る。 ・「ドリブル」「パス」の正しいフォームを知る。	・バスケットボールの基本的なルールについて説明をする。 ・利き手の確認を行う。ボールのつきかたの確認をする。パスの方法を伝える。	A
	2～3	・「ドリブル」の練習 ・「パス」の練習	・準備運動からドリブルを取り入れ、ボールに慣れることから始める。 ・近い距離から遠い距離へと間隔を広げてパス練習をする。	AB
2	4～7	・「シュート」の練習 ・「ドリブル」の練習 ・「パス」の練習。	・シュートを行うにあたって狙う場所の確認を行う。 ・両手でドリブルを行う。 ・ドリブルパスの練習を行う。 ・ドリブルリレーを行い、走りながらドリブルをすることを身に着ける。	AB
3	8～10 (本時)	・「ドリブルリレー」 ・「シュート」の練習 ・ゲーム	・リレー形式で行うことでドリブルのスピード性を求める。 ・様々な角度からシュート練習を行う。 ・特別ルールを設定し、全員がゲームに意欲的に参加できるようにする。	ABC

9. 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・「ドリブル」の練習に意欲的に取り組んでいる。
- ・ゲームに積極的に参加している。
- ・全員がシュートを打つことができる。

(2) 本時の評価規準

- ・「ドリブル」の練習に意欲的に取り組んでいる。
- ・ゲームに積極的に参加しようとしている。
- ・ゲームの中でシュートを打つことができている。

(3) 本時の ICT 活用のポイント（活用のねらい、工夫する点）

- ・タブレットを利用し、試合の動画を撮影し、事後に振り返りを行う。

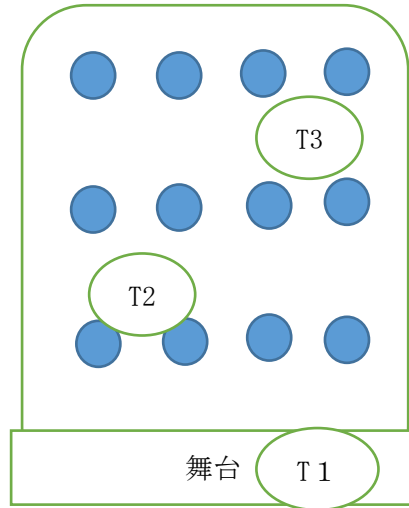
(4) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点及び支援の手だて等	評価規準 (評価方法)
5分 導入	<p>●あいさつ・出席確認・体調確認</p> <p>① 「ボール体操」</p> <p>② 「ドリブルリレー」</p>	<p>●はじめの隊形をチームごとに並ぶ。(事前にビブスを用意し、着るようにする) 各学年欠席者・見学者の確認をする。一人ずつ呼名をして体調などの確認を行う。</p> <p>●T1が舞台上で手本を見せながら、ボール体操を行う。(T2・T3が学年内で巡回指導を行う。) (※展開図参照)</p> <p>●チーム混合でのドリブルリレーを行う。 青・赤で1チームと黄・緑チームで1チームにし、リレーをする。 体育館1面を使い、バスケットボールの準備運動の一環として行う。T1が内容を説明中にT2がコーンを所定の場所に設置する(※展開図参照)</p> <p>●休憩に入る前に次の並び方の確認を行う。(T1)</p>	<p>意欲的に学習に取り組み、技術の向上を図ることができる。(主)</p> <p>ドリブルがスムーズにできている。(知・技)</p>
2分	●お茶休憩	●休憩後はチームごとに整列し座る。	
30分 展開	<p>●ゲームの説明を行う</p> <p>③ゲーム</p>	<p>●チームごとに整列をさせ、ゲームの説明を行う。 ※特別ルールの設置などの確認を行う。</p> <p>① シュートを打つ(シューター)ドリブルをする(ドリブラー)の二つのポジションを設定する。</p> <p>② シューターは得点が入るまで、最高で4回シュートを打てるものとする。シューターは二人とし、シュートを打つごとに交代をする。(一人2回まで打つことが可能)</p> <p>③ シューター用のコートにはドリブラーは入れないものとする。</p> <p>④ シューターは試合ごとに入れ替わり、全員がシュートを打つこととする。</p> <p>⑤ 得点盤担当を生徒に担ってもらう。</p> <p>●T1が主審・T2が副審・T3が生徒見守りの役割に分かれる。生徒一人に得点盤を担当してもらう。(※展開図参照)</p> <p>第1試合 青 VS 黄 第2試合 赤 VS 緑 第3試合 青 VS 黄 第4試合 赤 VS 緑 第5試合 青 VS 黄 第6試合 赤 VS 緑</p>	<p>バスケットボールの基本的なルールを理解している。(知・技)</p> <p>ボールを受けたり、パスをしたりすることができる。(知・技)</p> <p>シュートを打つことができる。 (知・技)</p>
3分 まとめ	<p>●結果発表</p> <p>●整理体操</p> <p>●体調確認・あいさつ</p>	<p>●勝敗の結果を発表する。</p> <p>●怪我や体調不良者がいないかを確認する。</p> <p>●簡単な整理体操を行う。(T1)</p>	<p>結果などを仲間と共有することができる。 (思・判・表現)</p>

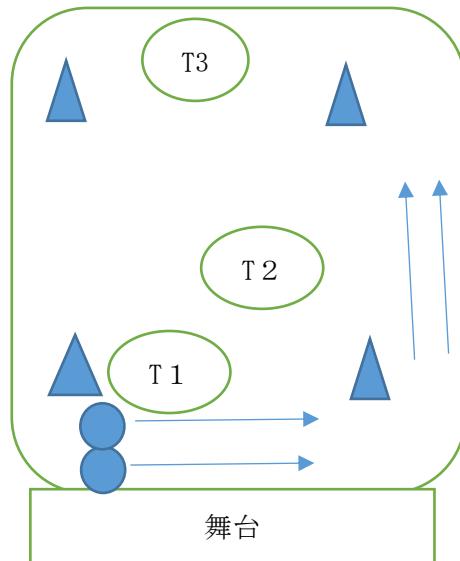
授業展開図と教員立ち位置

① ボール体操

● = 生徒



② ドリブルリレー



③ ゲーム

